＜実践例　２＞　第２学年　　平成３０年５月　　（武　田　美　奈）

１．単　元　　PROGRAM 3 What Can We Do for Others?

（ Sunshine English Course 2 ）

２．単元の目標

（１）must、have to、don't have to や I think(that)～.の表現や既習の英語を用いて、社会のために自分ができることについて、相手に積極的に伝えたり、相手の考えに興味を持って聞いたりしようとする。　（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

（２）must、have to、don't have to や I think(that)～.の表現や既習の英語を用いて、自分たちの社会を良くするためにできることについて、口頭で意見交換をしたり、自分の考えを書いたりすることができる。　（外国語表現の能力）

（３）must、have to、don't have to や I think(that)～.の表現を含んだ対話文や英文の内容を正確に聞き取ったり、読み取ったりすることができる。また、教科書で扱われている内容から発展した英文を読んで要点や書き手の主張を理解することができる。

（外国語理解の能力）

（４）must、have to、don't have to や I think(that)～.の表現の意味、用法を理解し、正しいスペリングや語順で英文を作ることができる。　（言語や文化についての知識・理解）

３．指導にあたって

（１）生徒観

本学級の生徒は、第１学年時に、人物紹介や学校紹介など身近な題材について発表したり、写真に描かれた人物を書き表したり、４コマ漫画の登場人物の台詞を自分で考えて書いたりするなど、写真や絵などの媒体を通して自分で表現する活動に取り組んできた。これらの活動を通して、相手の発表や考えを積極的に聞こうとする姿勢、与えられた題材に対して主体的に表現する力を身に付けてきた。４月に行ったアンケートからも、多くの生徒が「話す」力、「書く」力を伸ばしたいと感じており、表現活動への意欲の高さが窺える。現状として、生徒は英文や絵などから読み取れる事実について述べたり書いたりすることができている。第２学年では、他者から聞いたり、英文から読み取ったりしたことを基に、自分の意見や考えを伝え合ったり書いたりする力を付けさせたい。そのためには、聞き取りや読み取りの際に要点や相手の主張を適切に捉えて理解をしていくことや、聞き取りや読み取りを通して得た新しい表現を自分の中に取り入れていくことが大切であると考える。また、これまで身近な題材を扱った対話文を中心に学習してきたため、まとまった文量の説明文などを聞いたり、読んだりする際のポイントを習得していくことが必要である。聞いたり読んだりすることが、自分の表現の幅を広げることにつながることを実感させていきたい。

（２）教材観

本単元は、「What Can We Do for Others?」と投げ掛けることで、自分を取り巻く周囲のために自分たちができることについて考えさせることを意図している。具体的には、チャリティーウォークの話を通して、チャリティーの意義について学んだり、自分たちの身の回りの社会貢献について考えさせたりする。さらに、より話題について深く考えさせるために、発展課題として、ウォーク・ザ・ワールドが開催される背景にある「食糧問題」についての英文を扱う。「食糧問題」は国連が採択した SDGs の一つであり、これからを生きる生徒たちが今後向き合う大きな課題である。「食糧問題」の英文を読むことを通して得た新たな知識や英語表現から生徒自身の表現の高まりを実感させたい。

言語材料としては、助動詞 must、準助動詞 have to、don't have to や I think(that)～. を学習する。must、have to、don't have to を学ぶことで、自分がしなければならない義務や必要性、また相手への命令や指示を英語で表現する能力が備わり、自分の気持ちや考えに意志や判断を加えて表現することができるようになる。生徒は、第１学年時に助動詞 can を学んでいるため助動詞の用法については理解しているが、今回学ぶ助動詞 must、準助動詞 have to は、行動の理由が内的要因か外的要因かで使い分けが必要とされる表現である。また、I think(that)～.を学ぶことで、対話や相手との意見交換の際に、自分の考えや感想を表明することができるようになる。生徒にとっては、第１学年時に学んだ because の次に学ぶ複文構造となる。

（３）指導観　～目指す生徒の姿に近付けるために～

本単元での授業における、資質・能力を発揮している生徒の姿を、以下のように考えている。

英文を通して得た新たな知識を基に、自分の考えやその場の状況に即した助動詞を選択しながら話題に対する自分の考えを英語で表現し、伝え合っている。

英語科では３年間を通して、「外国語を通じて、主体的に人や社会とかかわりを持ち、場面や目的、相手に応じてより適切に伝えあう生徒」の育成を目指している。そのために、本単元では、相手やその場の状況に適した語句や伝え方を選択し表現する力を身に付けさせていく。

①本単元で付けさせたい資質・能力

本単元では、自分の身近な場所や自分を取り巻く社会のために自分たちができること、「What Can We Do for Others?」について、自分の考えを相手と伝え合う言語活動を設定する。単元を通して、「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること」（「話すこと」ウ）と「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」（「読むこと」オ）に重点を置いて進めていく。具体的には、自分の考えやその場の状況に即した助動詞を選択し、自分の考えを表現することができるようになるために、始めは「学校の中でしなければならないこと」など、表現が限定される話題を提示し、最終的に「学校をより良くするために自分たちができること」という、生徒自身の考えや表現の幅が広がる課題を提示していく。また、「食糧問題」の課題提示の際は、教科書の内容をより深める英文を扱うことで、情報を自分で抽出、整理し、活用する力を身に付けたり、読んだ内容を基に自分の考えに根拠を添え、説得力のある意見を述べたりすることができるようにしていきたい。さらに、生徒自身が、自分の表現がその場の状況に適しているのか、相手に伝わるのか、考えさせながら学習を進めていくために、「What Can We Do for Others?」に対する自分の考えを伝える際に、教科書の本文を読む前、教科書の本文を読んだ後、教科書から発展した英文を読んだ後など、段階を踏んで取り組む場面や、

仲間と意見交流後に、再度意見を考えるなど、同じ課題に繰り返して挑戦する場面を設定する。

本単元を通じて得た、学びを生かす力やコミュニケーションを行う目的や場面などに応じて情報を整理し、考えを構築する力は、特に全教科共通で重視して育む資質・能力②「知識や技能、経験の生かし所を見いだす力」と③「場合に応じて判断基準を組み合わせる力」を伸ばすことにつながると考える。

生徒たちは学年が上がるにつれて、その場の状況や場面に合わせた適切な話をしたり、社会的な話題に遭遇したりする場面が増えてくる。場面や状況を考えながら相手にわかりやすく伝える、視野を広げ様々な話題について自分の考えを持つという意識を大切にしながら、相手とのコミュニケーションを通して、自分の考えをさらに広げたり深めたりすることができることを期待している。

②手立て

学習を進めるにあたり、特に以下の点に留意する。

・自分の考えやその場の状況に即した助動詞を選択することができるようになるために、始めは、限られた助動詞を用いて表現する課題を提示し、その後、自分で既習の助動詞を選択して表現する課題を提示するなど、段階を踏んで取り組ませる。
・自分の考えに根拠を添え、説得力のある意見を述べることができるようにするために、教科書の内容をより深める英文を扱う。
・自分の表現がその場の状況に適しているのか、相手に伝わるのかを考えさせるために、授業の途中で課題に再挑戦したり、自分の考えを再構築したりする場を設定する。
・表現力を高めるために、ペアだけではなく全体の場でも表現を共有しながら、良い表現の基準を考えていく。
・本文の要点を捉えることができるように、読み取りや聞き取りの際に事前に質問を与えたり、視覚教材でイメージを促したりする。
・英文の中にある語彙や表現を活用することができるように、形態を変えて音読活動に何度か取り組ませる。

４．単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①相手の考えを適切に聞き取り、応答したり、自分の考えを相手に積極的に伝えたりしようとしている。 （１）ア（エ） （２）イ（ウ）	①適切な声量や明瞭さで音読している。 （３）ウ（イ） ②テーマに対して自分の考えをふさわしい表現を用いて話したり、書いたりしている。 （２）イ（ウ） （４）エ（ウ）	①与えられたテーマに対して自分の考えを述べることができるように、大切な部分や書き手の考えを捉えながら読んでいる。 （３）ウ（ウ）、（オ）	①must, have to, don't have to, I think (that)….を用いた文の構造を理解している。 （４）エ（イ）

★本単元での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

５．学習計画（６時間計画）

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
１．must を用いた英文を読んで内容を聞き取ったり、読み取ったりする。 （１）	・本文の概要を正しく聞き取ったり、チャリティーウォークの日程や留意点を読み取ったりしている。 （理・言）	・チャリティーウォークの詳細を読み取らせるために、must や can に着目させる。
２．have to / don't have to を用いた対話文を読んで内容を聞き取ったり、読み取ったりする。 留学生向けに、学校の規則や附中生としての心得を紹介する英文を書く。 （１）	・対話文の内容を聞き取ったり、ウォーク・ザ・ワールドの意義について読み取ったりしている。　（理・言） ★must と have to を使い分けて、自分たちがしなければならないことなどについて書いている。 （表・言）	・ウォーク・ザ・ワールドの意義や内容を理解しやすくするために、視覚教材を交えながら読み取りをさせる。 ★自分の考えやその場の状況に即した助動詞が選択できるように、規則と心得を整理させながら、must と have to の使い分けに気をつけて英文を書かせる。
３．I think(that)～.を用いた対話文の内容を聞き取ったり、読み取ったりする。 （１）	・対話文を正しく聞き取ったり、武史とリサの意見について読み取ったりしている。　（理・言）	・武史とリサの意見を読み取らせるために、I think～. や can に着目させて対話文の読み取りをさせる。
４．学校をより良くするために自分たちができることについて書いて、相手と意見交換をする。 （１）	★must、have to、 should、can を自分の考えに即して選択して、自分たちができることについて考えを相手と伝え合っている。　（表）	★助動詞を自分の考えに即して選択することができるように、自分たちができることに優先順位をつけて考えさせる。
５．食糧問題を取り上げた英文を読んで内容を理解し、自分たちができることについて相手と口頭で意見交換をする。 本時（１）	・食糧問題の原因を読み取っている。　（理） ★英文中にある重要表現を活用しながら、must、have to、should、 can を自分の考えに即して選択して食糧問題についての考えを相手と伝え合っている。 （意・表）	・原因を想起させやすいように、視覚教材を交えながら読み取りをさせる。 ★自分の考えやその場の状況に即した助動詞を選択しているか確認したり、自分の英文を言い換えたりすることができるように、意見交換の場を複数回設定する。
６．食糧問題について、自分たちができることを書く。 （１）	★must、have to、 should、can を自分の考えに即して選択して、食糧問題についての考えを書いている。 （表・言）	★助動詞を自分の考えやその場の状況に即して選択することができるようになるために、優先順位と理由を考えさせてから意見を書かせる。

６．本時の学習活動（５／６）

（１）目　標

食糧問題について、英文中の表現を活用したり、自分の考えやその場の状況に即した助動詞を選択したりしながら、自分の考えを相手と口頭で伝え合うことができる。

（２）展　開

学習活動【学習形態】	目指す生徒の姿	教師の手立て
１．食糧問題についての知識を確認する。　【全体】	・食糧問題に対して、自分が知っていることを考えたり、発言したりしている。 ・食糧問題についてできることを英文で表現するために、新しい情報や表現力が必要なことに気付いている。	・食糧問題を想起するように、写真やキーワードを提示する。 ・生徒に、知識が必要なことに気付かせるために、あえて、食糧問題について何ができるかと英語で尋ねる。
課題　Today’s topic is “Hunger.”　What can we do for hungry people ?		
２．食糧問題についての英文を読む。　【全体】→【個】	・食糧問題についての英文の概要を読み取っている。	・概要を読み取らせるために、事前に読み取りのポイントを与える。
３．食糧問題についての英文の要点を確認する。　【個】→【全体】	・食糧問題の原因について読み取り、ワークシートに記入している。	・原因を読み取ることができるように、焦点を絞った問いを設定する。
４．食糧問題についての英文を音読する。　【全体】→【ペア】	・相手に伝わる声量や発音で音読している。	・相手に伝わる声量や発音で音読することができるように、ペアリーディングを行い確認させる。
５．食糧問題についてできることを考え、伝え合う。　【個】→【ペア】	・must、have to、 should、can を自分の考えに即して選択して考えを相手と伝え合っている。	・適切な助動詞を選択しているか確認したり、英文の言い換えをしたりすることができるように、意見交換の場を複数回設定する。
＜重点を置いた英語科の資質・能力を発揮している姿＞ ★英文中の重要表現を活用しながら、自分の考えやその場の状況に即した助動詞を選択して、食糧問題についての自分の考えを英語で表現し、伝え合っている。		
６．全体で考えを共有する。　【全体】	・良い考えとは何か考えながら仲間の意見を聞いている。	・良い考えの基準を全体で考えることができるように、様々な考えを取り上げる。
７．振り返り　【個】	・自分の発話内容を振り返り用紙に英語で記入している。	・次時につながるように、発話内容とその英文を書いた理由を書かせる。

（３）評価とその方法

食糧問題について、英文中の表現を活用したり、自分の考えやその場の状況に即した助動詞を選択したりしながら、自分の考えを相手と口頭で伝え合うことができたかを学習活動５の意見交換の様子の観察や学習活動７のワークシートへの記入内容から評価する。

７．授業を終えて

【生徒の振り返りから】

・自分たちが社会のためにできることを考えることができ、同時に新しい英単語も学ぶことができた。

・英語を通して国際的な問題を学び、新しい表現で自分たちはどのようなことをするべきなのかということやその理由について話せるようになった。

・世界の人々について学ぶことができた。自分も何かできないか、もっと調べてみたいと思った。

・自分の実現可能性と照らし合わせて、must, should などの助動詞を使い分けて、自分の意見を書くことができた。

・hungry people のためにできることを今まで考えたことがなかったので、英語で表現することが難しかった。

・自分の言いたいことをすぐに英語に変換することができなかった。英語で考えることができるようになりたい。

【事後研究会から】

実践を通しての成果（〇）と課題（▲）は以下の通りである。

〇reading を通して、生徒が新しい英語表現を身に付けたり、題材について既存の知識と結び付けながら自分の意見を深め伝え合うことができた。

〇What can we do for hungry people? という問いを、読み物資料を読む前と読んだ後に投げかけたり、we が誰を指しているのかを問いかけたりしたことで、生徒に再思考する機会を与え、思考の高まりに結び付けることができた。

〇食糧問題という社会的問題を扱い、読み物資料の中に事実を含めたことで、生徒が自分自身から生み出される考えから発展して、根拠に基づいた意見を構築することができた。

▲読み物資料を提示した際に、教師が音読したことで listening からの導入になってしまった。生徒が、初見で黙読する形を取り reading からの導入にすることで、生徒の読む力を鍛える機会を設ければ良かった。

▲must, should, can などの助動詞や、have to の準助動詞の提示を教師のねらいに合わせてもう少し明確にするべきだった。具体的には、teacher's talk の中にいくつか取り入れて、生徒が意見を考える際の手助けにしたり、自分が must であること、can であることは何か限定して問うことで、自分の考えにより即した助動詞の選択をする必要性を感じさせたりする必要があった。

▲生徒の表現の高まりを目指したが、良い表現とは何か、という教師の基準があいまいであったと思う。表現活動の際に、全生徒が達して欲しいレベル、また、特に優れた表現であると考えられるレベルを、教師自身が明らかにしながら取り組んでいきたい。